

或る婦人の

會はう 會はう 明^二日^一下で今こそ向き合はう
なといあるがはげしく嫌悪しようとも、恨みの視線でわなを刺しようとも

いくなか、會つてはなうめと引返しなからやうと来るこの道

野茶畑に中子やかに風車が回り、子供をうかうまじやしく花を摘みあそぶ

この静かな焼跡の町

この町のバラック街の溝露路やどこか奥に

あるとは、確かにかく小住んでいる、

あの夏の日から一年ばかり、雨の日をえらんで傘にかくれ

病院に通るのを止めたら

どんなに明るい天気の日でも、どんなに母がすすめても

家から外に出ぬというあるな

死ぬまじは、誰にも會はぬというあるな、

あのB29が、遙きとあつて小さくとわくを軒下から見上げていたな

片腕をふぶかて家にもぞとろれ、顔とまともに焼かれ

やつと治つたあははレロイドの隆起がよいけて曲り

眼とげば、自鼻といはず、こころと塊うつりこころというあるな

片腕で夏はレース褲、冬は毛糸を纏んで生活を樹てていよという

あるな

娘心を焼かれはてな、あるな胸がつかれなと刺さるつ

泪の痕を握るために

あるなに會つてはなうめというか?

いや、會えませんでした、會うべきが、

会おう、わなは念あう

あ、會いにゆくわなし自身も心も、癒えかぬレロイドに、敵はわな

膿汁を流して、いのちを知つてくれ

わなしたちの眼窩は、脳髓かけて、断る割られ

歪んだ口は、肉親の骨の味を、いつぱいつめたいわなも知つてくれ

このすがたを、持てる空より、この怒りを、つなぐ念せ

化けもの、葉いと、象目に、ささして

世界の中、人の心に、レロイドの、苦惱と、灼きつけよう

至る一、生きた、皮膚の、層を、寒気で、剥き、やまぬ肉の

この、底ぐらゐ、憤り、かゝ、凄涼、みせよう

狂ほしい、わな、かき、たて、燃え、なせよう

あ

会はず、わな、わな、わな
あるな、安んず、心の中、わな、わな
平和、う、用、い、わな、わな、わな
くれ、わな、わな、わな、わな

V

A

